

HR 資料 ⑮ - 2021.09.25

□ 受験における《 3種の転換 》

○ [習う・做う ⇒ 学ぶ・考える]

◇ “ 教えられたコトを記憶し応用できるようにする ” [他律的モード]

⇒ 『 大学とは、学ぶとは何か？ を学ぶ場であり、職業に直結する場ではない。』

[自律的モード] (自ら学ぶ場)

(“ 大学入試においては、受験生に理解力を問うことはない ” と、大学側は語る。)

○ [話しことば ⇒ 書き言葉]

◇ “ 答案 ” = 《 書く 》 ことで自分の実力 (**アタマのなか**) を表現する場

▷ 『 一般的なメール文にて、意図・内容が正確に伝わる率は、ほぼ 50 % である。』

▷ 会話・講演等を録音したものを、そのまま文字化した場合、大部分は《 文章 》 という形態にはならない (伝わる文章とはならない) 。

▷ 今年 1 年間、あなたが “ 書いた ” ものは、すべてが《 答案 》 である！

○ [減点法 ⇒ 加点法]

◇ 減点法 : 模試、一部の大学 (おもに私大入試 (知識型メイン)) , 短答型試験など

▷ “ 採点基準 ” の存在 ⇒ 記述ポイントの**規定化** ⇒ **書いても点数にならない**。

◇ 加点法 : おもに国公立大学入試

▷ “ 採点基準 ” が存在していても**減点ルール**は緩いケースが多い。

▷ “ 採点基準 ” が存在していないケースもある印象 ⇒ **思考過程・記述内容の評価!**

† **白紙答案**は “ 考えていない・考えるコトができない ” という評価となる。

† “ 書けば書くほど ” **加点される可能性**が増大する。

□ 大学入試における**大学側の論理等** (実際に大学側の担当教授等にヒアリングした結果)

○ 白紙答案は “ 考えられなかった・知らなかった ” と同等。

⇒ “ 考えた ” のであれば、どこまで・どのように考えたのかを**記述すべき**。

○ 高校までに**習得すべき知識量**、およびそれらの**多少の応用に慣れているか否か**のチェック。

○ 入試とは、大学において《 考える力・行動力・研究心・探究心 … 》の基盤となる要素 (資質・素養 ?) の “ **保有度合い** ” のチェックでしかない。

⇒ つまり、アタマの “ 良し悪し ” を測っているわけではない。

○ 専門的知識や専門的思考を問うことはしない。かつ、理解力を問うことにはなっていない。

○ パターンの訓練や準備してきたような解答は、無意味に近く、ほとんど評価できない。